

# 元気

## まち物語

2011.9



### 菊舎顕彰会

いるのが「研究会」の面々です。「私たちが知っていることはわずかなので、新しい発見はうれしい。でも、菊舎を知らない人にとって菊舎の遺品は価値のない物。それが失われないようにしなければ」と口をそろえます。

#### 発信した情報も全国行脚

江戸時代の女流俳人、田上菊舎は現在の豊北町田耕生まれ。24歳で夫と死別後、尼となり諸国を歩きながら、俳句、和歌、茶事などにも通じた菊舎に思いを寄せる「菊舎顕彰会」を豊北町に訪ねました。

#### 菊舎を研究する

昭和31年、菊舎の130回忌を機に発足した顕彰会。菊舎の業績を調べたり資料を展示したりして、ふるさとの誇りを皆さんに伝えていきます。「菊舎が好き。この一言でみんながつながっているんです」と話すのは、会長の岡昌子さん。菊舎の号「字庵」を引き継ぐ十一代として、会を力強くリードします。活動は、俳句大会や菊舎に関する講演会を開いたり、ゆかりの地を巡って情報を集めたりなどさまざま。この中でも、会長の元で中心となって資料集めや整理をして

#### 感じたことを表す「俳句会」

日を改めてお邪魔した夜の田耕俳句会。会員が1人5句ずつ持ち

寄り、互選でその日良かった句を決めます。さまざまな年齢の方が参加して常に笑顔の絶えない会で、私も初めての席とは思えませんでした。「来る者拒まず」の雰囲気は、顕彰会などの活動にも通ずるようで、良い意味での敷居の低さは会の魅力の一つです。

集まった句は、暮らしの中から自然と生まれたからか、力みが感じられないのがいい心地。菊舎よろしく、それぞれ思ったことを言い合い、時間は流れていきました。「菊舎の研究は幅広く、奥が深いから、私たちの代では終わらないと思います」と語る岡さんの周りの笑顔は、きっと世代を越えてつながっていくのでしょう。

- ①この秋に顕彰会が出版を予定している菊舎すごろくの内容を検討中の研究会員。左端が岡会長。
- ②研究会のメンバーはライフワークとして菊舎の研究を楽しむ。
- ③夜の田耕俳句会。句への意見を冗談交じりに言い合いながらも、向上心は忘れない。



笑い声 蝉の飛び込む句会かな(取材者)